

【巻頭言】

第24号の発刊によせて

2021年も「コロナ」で始まり、8月には4度目の緊急事態宣言が出されました。

この新型コロナウイルス感染症の拡大は、国民生活をはじめ社会・経済にも大きな影響を与え、雇用情勢は、これまで改善傾向にあったのが一転し千葉県においても有効求人倍率が1倍を下回るなど、厳しい状況となっています。

また、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、極力、接触や対面を避ける「新しい生活様式」への切り替えは、テレワークをはじめとする情報通信技術を活用した働き方を急速に浸透させるとともに、職業訓練の分野においてもオンラインによる訓練の実施など、仕事を取り巻く環境に大きな変革をもたらそうとしています。

このような状況の中で、厚生労働省において第11次職業能力開発基本計画（以下、「基本計画」という。）が策定されました。

基本計画では、新型コロナウイルス感染症の影響によるデジタル技術の社会実装の進展や人生100年時代の到来による労働者の職業人生の長期化など、労働者を取り巻く環境が大きく変化していくことに対して、労働者が主体的に能力の向上やキャリア形成に取り組み、それを企業や国・都道府県等が支援することが、職業能力開発の基本的方向とされています。

また、具体的な職業能力開発の今後の方向性の一つとして、Society5.0の実現に向けた経済・社会の構造改革の進展を踏まえ、IT人材など時代のニーズに即した人材育成を強化するとともに、職業能力開発分野での新たな技術の活用や、企業の人材育成の強化を図ることが示されています。

基本計画に記載されているIoTやロボットなどの第4次産業革命の進展による技術革新などに柔軟に対応するためには、まずはその基盤となる知識、技能・技術をしっかりと身に付けておく必要があります。

当校では専門課程の2年間で、基礎的な専門知識から生産現場で即応できる技能・技術までを体系的に習得させるために、多くの時間を、原理・原則を理解する「実験」と実際の企業でも使用されている機器を使用する「実習」に充てています。

中でも、2年生で行う総合制作実習では、限られた時間の中で試行錯誤をしながら制作物を完成させるもので、設計から製作まで一連の流れを体験し、ものづくりの現場に必要な知識、技能・技術が集約され、チームとしての協調性やコミュニケーション力、製品開発に対する責任力、問題解決力など、職業人として必要な多くのことを身に付けることができます。

本紀要は、コロナ禍で、新たな取り組みであるオンラインによる訓練の実施や感染防止の取り組みを行う中、総合制作実習などでの当校の職員と学生の学びの成果、オンラインによる訓練などの訓練技法や専門技術分野の調査・研究、教材開発などについて取りまとめ、職員の自己研鑽の一端を記録にとどめたものです。

一人でも多くの方々に読んでいただき、教育訓練の向上・発展のため、また地域社会・産業に貢献するため、関係各位から忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

2021年12月

関東職業能力開発大学校附属
千葉職業能力開発短期大学校
校長 下町 弘和